

庄原地区都市再生整備計画（3期） 事後評価原案

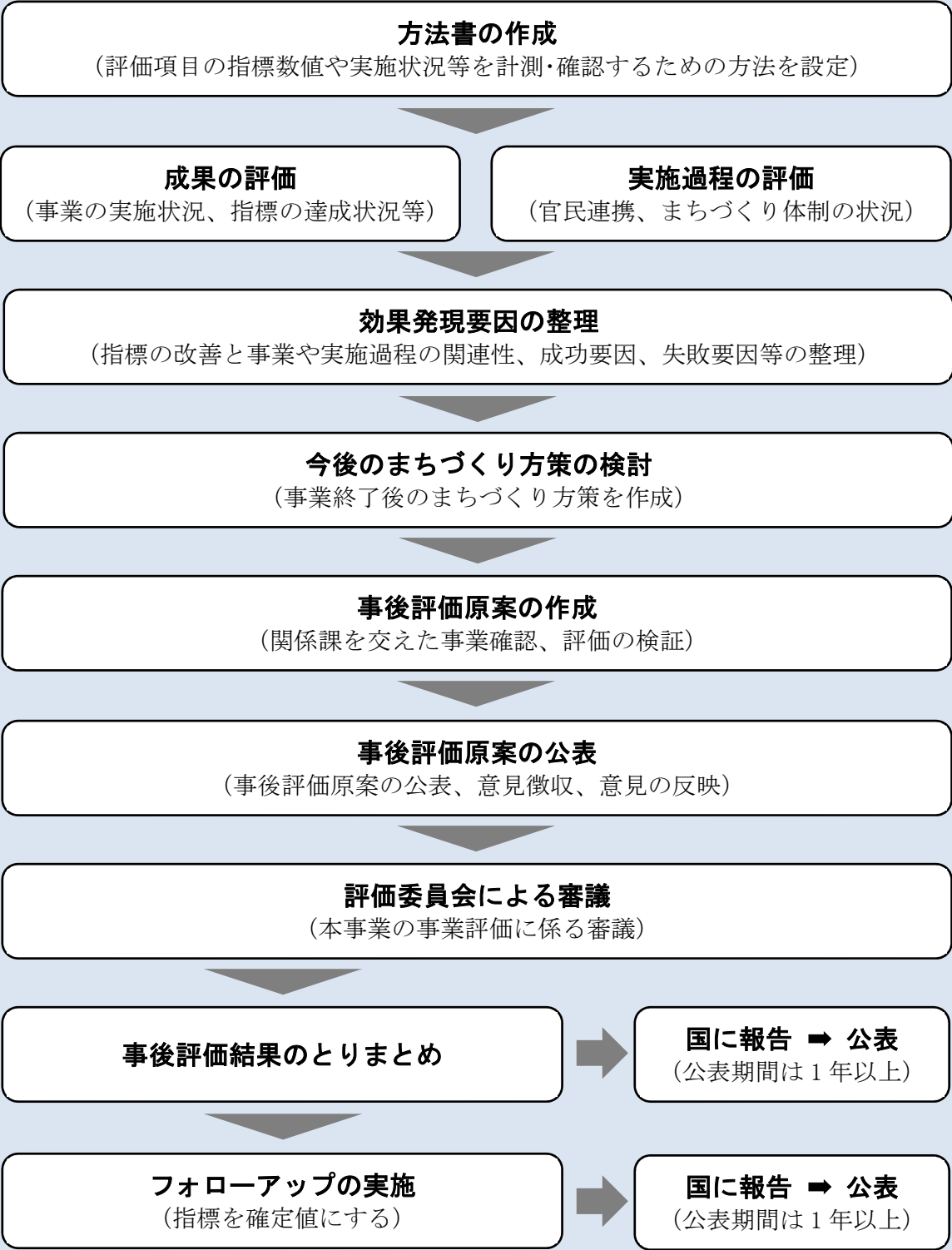
1. 事後評価制度の概要	P 1
2. 都市再生整備計画の概要	P 2
3. 成果の評価（数値目標の達成状況の整理）	P 5
4. 実施過程の評価	P 8
5. 効果発現要因の整理	P 9
6. 今後のまちづくり方策の検討	P 10

令和8年7月時点
庄原市 建設部 都市整備課

1. 事後評価制度の概要

事後評価の位置づけ	事後評価はPDCAサイクルによる事業評価制度の一環として実施されるもので、その後のまちづくりに活かすための作業。 都市再生整備計画 Plan 事業実施 Do 事後評価 Check まちづくりの課題 まちづくりの目標 目標を定量化する指標・数値目標 目標を達成するために実施する事業 課題は解決されたか？ 目標は達成できたか？ 計画どおりにできたか？ 改善策の実施 まちづくりの継続 次期計画へ反映 Act 改善すべき点はあるか？ 効果持続のために何をするか？ ◆まちづくりの効果を事業後も持続させる ◆成功体験、失敗経験を次のまちづくりの教訓に
事後評価の目的	事業がもたらした<u>成果等を客観的に診断</u>して、<u>今後のまちづくりを適正な方向に導く</u>こと、及び<u>事業の成果を住民にわかりやすく説明</u>することを目的とする。
事後評価の内容	① まちづくりの目標の達成状況等の確認 まちづくりの目標の達成状況、および実施過程の検証を行う。 ② 今後のまちづくり方策の検討 まちづくりの目標の達成状況を踏まえ、事業効果の発現要因を整理し、今後のまちづくり方策を検討する。 ③ 事後評価のチェック 事後評価の透明性・合理性・客観性を担保するために、評価結果を市民に公表し、意見を適切に反映すると共に、学識経験者を含む第三者で構成される「評価委員会」を開催し、その審議を経る。
評価委員会の目的	① 事後評価等が適切に遂行されているかの確認と、意見を頂く。 ② 今後のまちづくり方策等について意見を頂く。

事後評価の実施フロー



2. 都市再生整備計画の概要

事業概要：バリアフリーに対応した道路整備や、複合施設の整備などにより都市生活基盤を充実させることで、「住む人」・「来る人」が安心して快適に過ごすことのできるまちづくりを推進する。

従前の課題

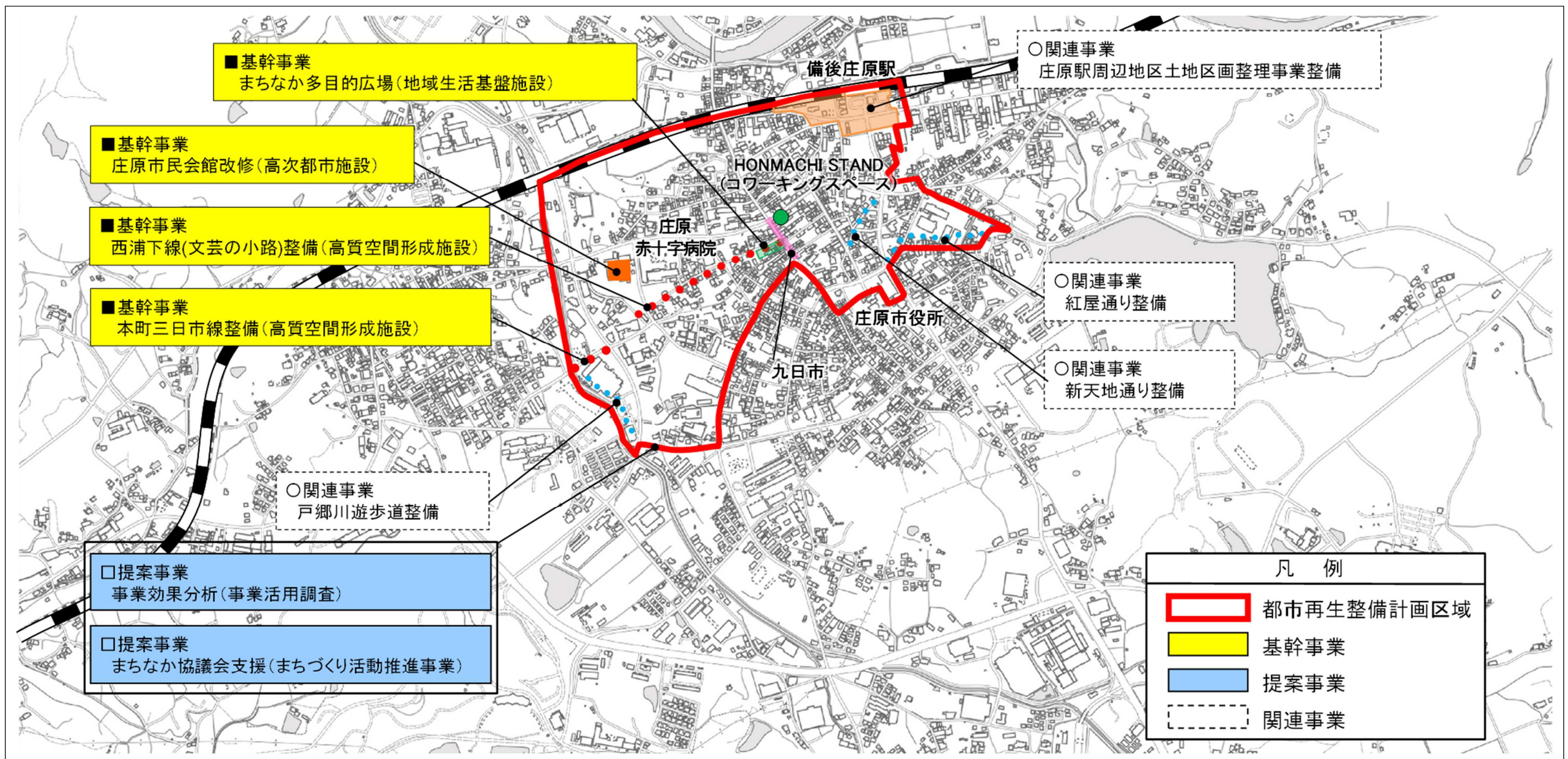
- ・まちづくり事業の継続と発展
- ・既存資源を活用した魅力の創出
- ・生活環境の向上
- ・災害時における防災施設の強化

目標

- 「住む人」・「来る人」が安心して快適に過ごすことのできるまちづくり
- ・まちの機能や生活基盤を充実させた、安全・快適で賑わいの創出と交流を育むまちづくり
 - ・中国地方を代表する交流拠点から交流人口を受けとめる都市機能の充実

目標を定量化する指標

- | | | |
|-----|------------|-------|
| 指標1 | 市民会館利用者数 | (人/年) |
| 指標2 | 市民会館満足度 | (%) |
| 指標3 | 地域イベント来場者数 | (人/年) |



事業種別		事業名	最終計画（第5回変更）				完成状況		備考
			事業期間		事業費 (百万円)	事業内容	完成	完成 見込み	
			開始年度	終了年度					
基幹事業	地域生活基盤施設	まちなか広場整備	R5	R7	39.4	面積：241.0㎡	●		
	高質空間形成施設	市道西浦下線（文芸の小路）整備	R3	R7	210.4	道路の拡幅及び美装化 L＝390m、W＝4m	●		
		市道本町三日市線整備	R3	R6	55.0	歩道整備、カラー舗装 L＝100m、W＝12m	●		
		高次都市施設	庄原市民会館改修	R1	R4	1,914.0	延床面積：5,091.26㎡ 地上2階、RC造	●	
提案事業	事業活用調査	事業効果分析	R7	R7	3.5			●	令和7～8年度に実施
	まちづくり活動 推進事業	まちなか協議会支援	R3	R7	2.5		●		
関連事業		庄原駅周辺地区土地区画整理事業整備							戸郷川遊歩道整備、紅屋通り整備、新天地通り整備は未実施



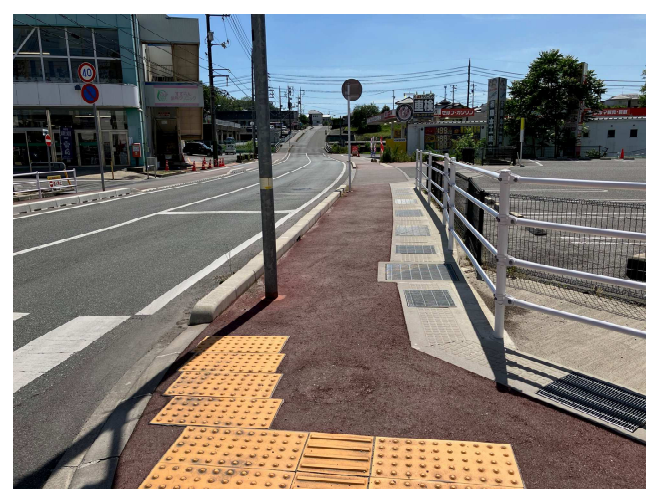
▲高次都市施設/庄原市民会館改修



▲地域生活基盤施設
/まちなか広場整備



▲高質空間形成施設/
市道西浦下線（文芸の小路）整備



▲高質空間形成施設/
市道本町三日市線整備



マップの印刷・配布



まちなか歴史ツアー



まちづくりワークショップ

出典：庄原市

▲まちづくり活動推進事業/
まちなか協議会支援

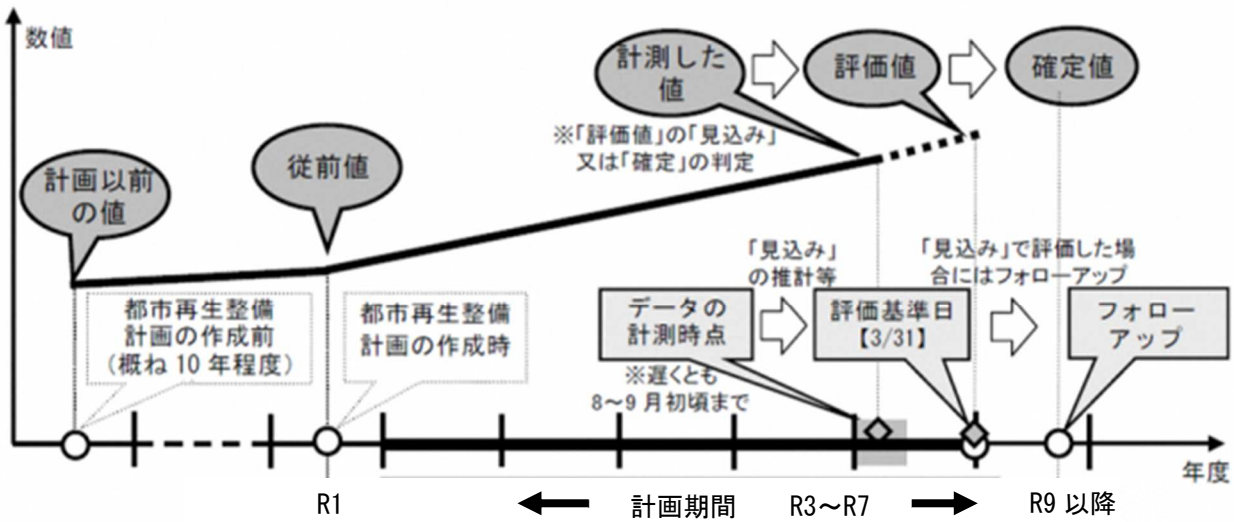
3. 成果の評価（数値目標の達成状況の整理）

指標	単位	従前値 (基準年度)	目標値 (基準年度)	評価値 (評価基準年度)			目標 達成度
指標1 市民会館利用者数	人/年	39,501 (R1)	40,000 (R7)	51,523 (R7)	確定	●	○
					見込み		
指標2 市民会館満足度	%	67.6 (R1)	75.0 (R7)	98.9 (R8)	確定	●	○
					見込み		
指標3 地域イベント来場者数	人/年	47,900 (R1)	50,000 (R7)	30,369 (R7)	確定	●	×
					見込み		

■目標達成度の評価の基準

目標達成度の評価の基準	達成度
評価値が目標値を上回った場合	○
評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合	△
評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善が見られない場合	×

■評価基準日の考え方



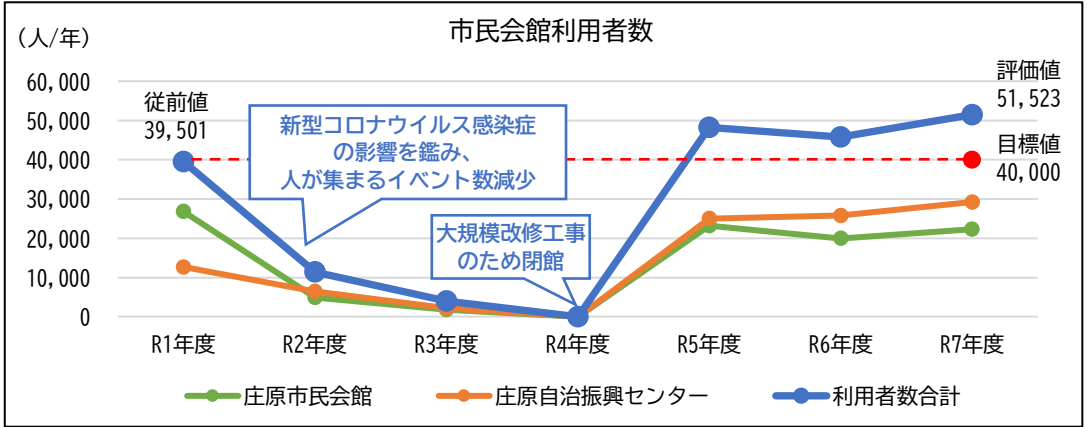
指標1：市民会館利用者数

従前値 (R1)	目標値 (R7)	評価値 (R7)	目標 達成度	1年以内の 達成見込
39,501 人/年	40,000 人/年	51,523 人/年	○	—

指標の定義	市民会館の年間利用者数
評価値の求め方	庄原市民会館(みどりしんきんホール)・庄原自治振興センター年度別利用状況の調査結果より把握した、年間利用者数を評価値とする。

【目標達成度】

市民会館利用者数を算出した結果、51,523 人/年となり目標値 40,000 人/年を上回ったため目標達成度は「○」とする。
新型コロナウイルス感染症の影響により減少したものの、令和4年度の大規模改修工事の実施やイベントの積極的实施により、利用者数増加につながったと考えられる。



目標達成度等に関する検証

これまで北側にあった庄原市民会館と、南側にあった庄原自治振興センターの事務室を中央に集約し、施設利用申し込み等がしやすい空間となった。また、壁や天井に庄原産の木材を使用している。

1階に入る庄原自治振興センターでは多目的ホールやフリースペース等が新設され、特にフリースペースは、近くの高中生や大学生の放課後の立ち寄り場所となっている。



▲庄原市民会館(みどりしんきんホール) 外観



▲自治振興センター フリースペース

指標 2：市民会館満足度				
従前値 (R 1)	目標値 (R 7)	評価値 (R 8)	目標 達成度	1 年以内の 達成見込
67.6%	75.0%	98.9%	○	—

指標の定義	庄原市民会館(みどりしんきんホール)のあり方に関する市民アンケートにおいて、ホールに関する各項目(設備)に対して“よいと思う”と答えた人の平均割合
評価値の求め方	アンケートを実施し、ホールに関する各項目(設備)における4段階の評価結果から“よいと思う”“悪いと思う”の回答の合計を100%に換算したときの、“よいと思う”と回答した人の平均割合を評価値とする。

【目標達成度】

市民アンケートを集計した結果、98.9%となり目標値 75.0%を上回ったため目標達成度は「○」とする。

令和 4 年度に大規模改修工事を実施したことによって、どの項目においても、「よいと思う」が 90%以上となっている。

アンケートの自由記述の中でも、「木目調で雰囲気が良い」「座席ごとが広くなり使いやすい」「スロープなどの動線が利用しやすい」などの空間の快適性や利用しやすさを評価する意見が多くみられた。

R1 アンケート 単位：％	よいと思う	わるいと思う	合計
音響	74.3	25.7	100.0
照明	65.3	34.7	100.0
舞台の広さ	86.9	13.1	100.0
舞台の見やすさ	81.2	18.8	100.0
座席数	86.2	13.8	100.0
椅子の広さ	51.3	48.8	100.0
座りごこち	45.2	54.8	100.0
空調	60.0	40.0	100.0
座席までの誘導	62.8	37.2	100.0
通路の幅	67.7	32.3	100.0
通路の歩きやすさ	62.5	37.5	100.0
平均	67.6		

R8 アンケート 単位：％	よいと思う	わるいと思う	合計
音響	99.6	0.4	100.0
照明	99.6	0.4	100.0
舞台の広さ	98.3	1.7	100.0
舞台の見やすさ	99.6	0.4	100.0
座席数	99.1	0.9	100.0
椅子の広さ	98.7	1.3	100.0
座りごこち	97.9	2.1	100.0
空調	98.7	1.3	100.0
座席までの誘導	98.5	1.5	100.0
通路の幅	99.1	0.9	100.0
通路の歩きやすさ	99.1	0.9	100.0
平均	98.9		

▲舞台側

▲客席側

出典：庄原市民会館 HP

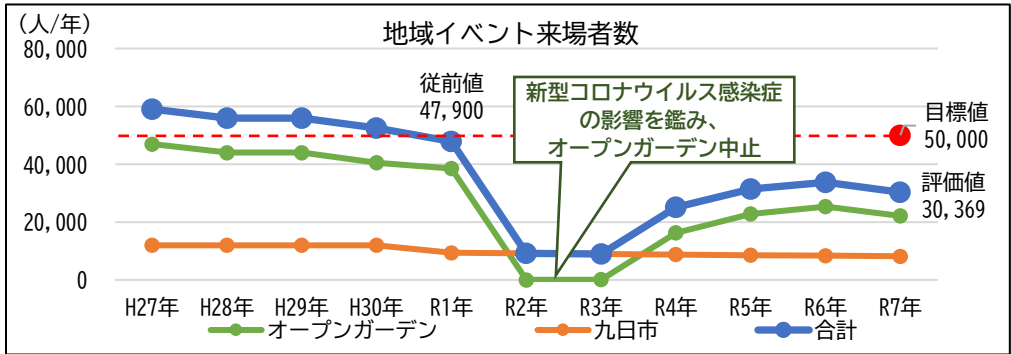
目標達成度
等に関する
検証

指標 3：地域イベント来場者数				
従前値 (R 1)	目標値 (R 7)	評価値 (R 7)	目標 達成度	1 年以内の 達成見込
47,900 人/年	50,000 人/年	30,369 人/年	×	無し

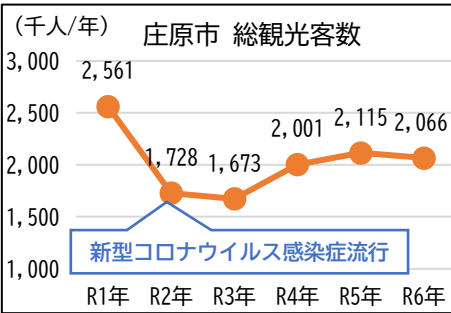
指標の定義	地域イベントの「オープンガーデン」、「九日市」の来場者数合計
評価値の求め方	広島県観光客統計調査票（1月～12月）における観光客数（市町内観光客を含む）より、「庄原さとやまオープンガーデン」「九日市」の総観光客数を評価値とする。

【目標達成度】

地域イベント来場者数を算出した結果、30,369 人/年となり目標値 50,000 人/年を下回った。また、従前値 47,900 人/年も下回っているため目標達成度は「×」とする。



目標未達成の要因は、来場者数は従前から減少傾向であり、目標値が過大であった。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、市全体と同様に令和元年度末に観光客数が減少し、近年は回復傾向にあるものの、目標達成に至るまでの増加がなかったためと考えられる。



オープンガーデンは市外から人を呼び込みながら地域全体をめぐる動きを生み出す取り組みであり、九日市は地域に根付いたイベントであり、まちなかに人が集まり日常的にぎわいや交流を生み出す場となっている。



▲オープンガーデンの様子
出典：庄原花会議 HP



▲九日市の様子
出典：九日市 HP

【1年以内の達成見込み】

計測時期である令和7年12月時点で完成していない「まちなか広場整備」「市道西浦下線（文芸の小路）整備」により、地域イベントへ来訪するきっかけが生まれ、今後事業効果が来場者数にも反映されることが予想される。一方で、目標値が過大であるため、1年以内の達成見込みは「無」と判断する。

定性的な効果発現状況

【庄原市民会館を拠点にしたイベントの実施】

●定期的なコンサート等の多様な文化イベントの開催

市民会館では、計画期間中（R3～R7）も毎月に渡って定期的にコンサートや文化イベントを開催し、市民の文化芸術に触れる機会の創出や世代間交流や地域コミュニティの形成が促進された。また、市内外からの来訪者を呼び込むことで中心市街地の賑わい形成にも寄与した。



▲市民会館でのコンサートの様子 出典：庄原市民会館 HP

【しょうばら花会議の取組】

しょうばら花会議では、地域資源である花と緑によるまちづくりを目的に、オープンガーデンの開催や寄せ植え講習会、ガーデニングに関する研修・交流活動等を継続的に実施している。

まちなか協議会による活動支援により、研修・交流活動等が継続的に実施され、地域資源である花と緑を活用した景観形成や魅力発信が図られ、市内外からの来訪者との交流機会が創出された。

また、地域の魅力向上やまちなかへの来訪機会の創出につながり、中心市街地の賑わい形成に寄与した。さらに、地域住民が主体となった活動を通じて、地域コミュニティの活性化やまちづくりへの参画意識の向上が図られている。

●庄原さとやまオープンガーデンの実施



▲中心市街地のオープンガーデン 出典：しょうばら花会議 HP



●花と緑によるまちづくりに向けた活動



▲庭造り指導講習会



▲オープンガーデン先進地の視察

出典：しょうばら花会議 HP

【庄原DMOの取組】

庄原DMO（庄原観光推進機構）では、地域資源を活用した観光地域づくりを推進するため、観光情報の発信や体験型観光プログラムの造成等に取り組んでいる。これらの取組を通じて、市内外からの来訪機会の創出や交流人口の拡大が図られている。

また、まちなか協議会による観光案内板の設置や道路・歩道整備による利便性向上とあわせて、来訪者の市街地周遊を促進し、中心市街地の魅力向上や交流機会の創出につながっている。

●「せとうち古民家ステイ」

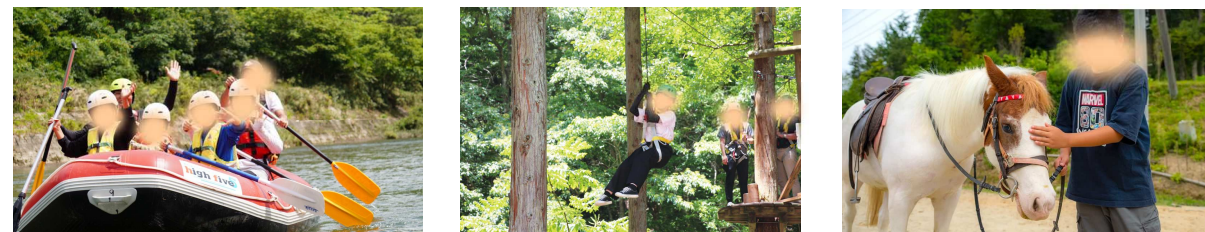
空き家（古民家）を活用した古民家ステイの推進に取り組んでいる。地域資源の有効活用を図るとともに、宿泊を伴う滞在型観光の促進により、市内各所への周遊や地域住民との交流機会の創出につながった。また、市外からの来訪者の受入れ環境の充実が図られ、交流人口の拡大や地域の活性化に繋がっている。



▲古民家を回収した宿泊施設 出典：せとうち古民家ステイ HP

●体験型観光プログラムの造成

里山や農業、自然環境など地域資源を活用した体験型観光プログラムの造成に取り組んでいる。観光客が地域住民と交流しながら庄原ならではの魅力を体感できる機会を創出することで、滞在時間の延伸や再訪意欲の向上が図られ、交流人口の拡大や関係人口の創出に繋がっている。



▲体験型観光プログラム 出典：庄原DMO HP

●国営備北丘陵公園等との連携による周遊促進

国営備北丘陵公園をはじめとする主要観光施設と連携し、市内周遊を促進する取組を実施している。交流拠点を訪れる観光客の市街地への誘導や地域資源との連携を図ることで、市内各所への回遊が促進され、交流人口の拡大や中心市街地の賑わい創出に繋がっている。



▲国営備北丘陵公園 出典：庄原観光ナビ HP

4. 実施過程の評価

持続的な まちづくり体制

庄原まちなか協議会

本市では、平成15年以来、「まちづくりワークショップ」が継続的に行われ、現在でも「庄原さとやまオープンガーデン」、「九日市」など、まちなかの賑わいと市民活動の活性化を目指した住民主体のまちづくり活動が展開されている。これら既存各種団体の活動を踏まえ、今後も連携しながら発展・進化させる組織として平成25年に「庄原まちなか協議会」が発足し、今日まで持続可能なまちづくり活動が展開されている。

■近年の活動内容

令和3年度	令和4年度
・百三ひろばの案内看板設置 ・しょうばら蔵ゼミ in 楽笑座 ・ガーデンシティについて学ぶ	・しょうばら蔵ゼミ in 楽笑座 ・まちづくり研究会及び意見交換会の開催 ・プランター管理支援

令和5年度

- ・まちなかイベントの周知
- ・まちなか案内看板の設置
- ・県立広島大学庄原キャンパスの見学会
- ・まちなか歴史ツアーの実施
- ・花による「まちづくり」の実施に向けた視察研修



▲花による「まちづくり」の実施に向けた視察研修 出典：庄原市

令和6年度

- ・まちなかイベントの周知
- ・まちなか案内看板の設置
- ・小学生を対象にした歴史ゼミの開講
- ・県立広島大学庄原キャンパスの見学会
- ・まちなか歴史ツアーの実施
- ・花による「まちづくり」の実施に向けた講演会



▲まちなか歴史ツアー 出典：庄原市

令和7年度

- ・まちなかイベントの周知
- ・倉田百三看板設置
- ・花による「まちづくり」視察研修
- ・まちづくりワークショップ
- ・まちづくり講座



▲花による「まちづくり」視察研修



▲まちづくりワークショップ



▲倉田百三看板の設置

出典：庄原市

官民連携 による取組

しょうばら産学官連携推進機構

「しょうばら産学官連携推進機構」は、産業や地域活力の低下が進む中、大学などが有する研究資源を活用して、産業界、大学、行政、地域社会などの連携を強化し、活力ある地域社会を創造するための橋渡し（マッチング）の役割を担うために、庄原商工会議所・備北商工会・東城町商工会・庄原農業協同組合・県立広島大学・庄原市によって平成15年に設立された。

以降、学生による地域活動への参画や産学官交流事業の実施を通じて、多様な主体の連携が促進され、地域コミュニティの活性化や交流機会の創出につながっている。

■定期報告会の実施

当組織の1年間の活動の振り返りと新たな交流の場のきっかけづくりとして、毎年度報告会を実施している。

○報告・発表者

- ・県立広島大学 教授
- ・県立総合技術研究所
- ・しょうばら産学官連携推進機構
- ・県立広島大学 学生

など

産学官連携 事例報告

報告①『サテライトラボ・地域連携セミナーの取組み』
県立広島大学 地域連携推進機構 萩田 信二郎 教授

報告②『県立広島大学地域貢献事業「集まりの場活性化プロジェクト」について』
県立広島大学 三原キャンパス保健福祉学部 菅井 敏行 教授

報告③『七塚原から地域のみなさんへ～2年間の取組のふりかえり～』
広島県立総合技術研究所 畜産技術センター センター長 河野 幸雄 氏

報告④『R7年度の産学官活動 振り返り』
しょうばら産学官連携推進機構 コーディネーター 小池 拓司 氏

産学官報告会
2026.2.26[木]
18:00-19:00
交流会でみんなつながろう！
第3回
「つながる」
入場無料 申し込み不要

大学生ポスターセッション

①「1人でも多くの子どもが望み通りの道へ進めるように」
NPO法人東海つばめ学習会 近藤 翔太、鈴木 悠太

②「地域で活動するさくらプランニング」
さくらプランニング 山本 晋、後藤 菜

③「山内地域と大学生をつなげる」
学生団体コネク ト 吉原 晏太

④「庄原まるごと見える化プロジェクトの活動内容」
学生団体コネク ト 吉原 那桜

会場 庄原自治振興センター（多目的ホールAB）
広島県庄原市西本町2丁目17-15

主催/しょうばら産学官連携推進機構 【問い合わせ】 TEL 090-1168-7570 Mail kaika@shobara-sangakukan.com

出典：しょうばら産学官連携推進機構

官民連携 による取組

関係人口の創出

庄原市では、行政、地域団体、事業者等が連携し、移住・定住トータルサポート窓口の設置やしょうばら空き家バンクの運営、庄原ファンクラブ及び庄原さとやま留学の実施など、関係人口の創出に取り組んでいる。

これらの取組により、地域外人材と地域住民との交流機会が創出されるとともに、多様な主体による地域活動への参画が促進され、交流人口及び関係人口の拡大や地域コミュニティの活性化につながっている



▲関係人口の創出へ向けたコワーキングスペースの整備
出典：左 庄原観光ナビ HP 右 HONMACHI STAND HP

5. 効果発現要因の整理

目標と指標の関連性		1. まちの機能や生活基盤を充実させた、安全・快適で賑わいの創出と交流を育むまちづくり		✓	✓				
		2. 中国地方を代表する交流拠点から交流人口を受けとめる都市機能の充実		✓	✓	✓			
目標達成度		○: 評価値が目標値を上回った場合 △: 評価値が目標値に達していないが、近年の傾向より改善している場合 ×: 評価値が目標値に達しておらず、近年の傾向よりも改善が見られない場合		指標1 市民会館利用者数	指標2 市民会館満足度	指標3 地域イベント来場者数			
				○	○	×			
種別		事業名・箇所名	指標改善への貢献度	貢献度の考え方	指標改善への貢献度	貢献度の考え方	目標未達成への影響度	影響度の考え方	
交付対象事業	基幹	地域生活基盤施設:まちなか広場整備	完成	△	・市民会館を大規模改修したことが直接的に貢献したと考え『◎』 ・市道本町三日市線整備が整備され、市民会館へアクセスする路線の安全性が向上したことが間接的に貢献したと考え『○』 ・まちなか協議会主催のイベントや総会により市民会館が利用拠点として活用されることが間接的に貢献したと考え『○』 ・土地区画整理事業でJR備後庄原駅前広場が整備されたことで交通結節点機能が整い、市民会館へのアクセス性が高まったことが間接的に貢献したと考え『○』 ・まちなか広場や市道西浦下線等は計測時は未完成・未整備であり、今後さらなる利用者数増加が期待できると考え『△』	○	・市民会館を大規模改修の際、ホールの内装や座席、舞台装置等を改善したことが直接的に貢献したと考え『◎』 ・まちなか広場が整備されたことで憩いの空間が形成され市民会館への立ち寄りのきっかけに寄与したと考え『○』 ・市道西浦下線が整備され安全かつ沿道の歴史的な街並みと調和した道路の美装化が間接的に貢献したと考え『○』	×	・市道本町三日市線整備が整備され、市民会館へアクセスする路線の安全性が向上したことで、指標の改善に貢献したと考え『△』 ・まちなか協議会にて他自治体のオープンガーデン視察や意見交換等を実施し、本市のオープンガーデンの魅力向上を図ったことで、指標の改善に貢献したと考え『△』 ・土地区画整理事業でJR備後庄原駅前広場が整備されたことで交通結節点機能が整い、イベントへのアクセス性が高まったことが、指標の改善に貢献したと考え『△』 ・まちなか広場や市道西浦下線等は計測時は未完成・未整備であり、指標への影響はまだ確認できないため『×』
		高質空間形成施設:市道西浦下線(文芸の小路)整備	完成	△		○		×	
		高質空間形成施設:市道本町三日市線整備	完成	○		○		△	
		高次都市施設:庄原市民会館改修	完成	◎		◎		-	
	提案	事業活用調査:事業効果分析調査	完成	-		-		-	
		まちづくり活動推進事業:まちなか協議会支援	完成	○		○		△	
		関連	庄原駅周辺地区土地区画整理事業整備	完成		○		○	
戸郷川遊歩道整備	未整備		△	△	×				
紅屋通り整備	未整備		△	△	×				
新天地通り整備	未整備		△	△	×				

指標改善への貢献度(達成度が○の場合)

- ◎ 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した
- 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した
- △ 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった
- 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない

目標未達成への影響度(達成度が△×の場合)

- ×× 事業が効果を発揮できず、指標の目標を達成できなかった直接的な原因となった
- × 事業が効果を発揮できず、指標の目標を達成できなかった間接的な原因となった
- △ 目標は達成していないが、指標の改善には貢献した
- 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない

総合所見	市民会館利用者数は、大規模改修により施設利便性が向上したことや、様々なイベントの開催、フリースペースへの立ち寄りが主な要因となって目標を達成した。	市民会館満足度は、大規模改修により内装の木質化や舞台装置の改善、車椅子席の増設などユニバーサルデザインへの配慮がなされたことが主な要因となって目標を達成した。	地域イベント来場者数は、従前から減少傾向であり、目標値が過大であった。さらに、新型コロナウイルス感染症流行以後、徐々に回復しているものの、流行以前の水準まで戻っていないこと、市全体の観光客が減少したことが要因となって目標未達成となった。

今後の方針	今後も文化交流施設として、市民をはじめとする様々な関係者と連携した施設運営やイベントを継続的に実施する。	今後も文化交流施設として、市民をはじめとする様々な関係者と連携した施設運営やイベントを継続的に実施する。	来訪者等の誘客及びまちなか回遊を促進するため、観光機能の更なる充実や移動環境の強化などを推進する。

6. 今後のまちづくり方策の検討

都市再生整備計画の課題	達成状況		継続・改善の基本方針	想定される主な事業
■まちづくり事業の継続と発展	達成されたこと	- これまでの計画で整備した路線や広場に接続する道路について、高質化や歩道整備を行い、一体的で連続性のある道路空間を形成した。 - 庄原市民会館(みどりしんきんホール)・庄原自治振興センターに多目的ホールやフリースペース等が新設されたことで、住民活動の場が創出された。	- 歩行者ネットワークの充実 - 庄原市民会館(みどりしんきんホール)・庄原市自治振興センターを中心とした交流の創出	- 連続性を持った歩行者空間の整備やバリアフリー化 - 道路や公園等の適切な維持管理 - 庄原市民会館(みどりしんきんホール)・庄原市自治振興センターにおける多様なイベントの開催
	残された課題	イベントの来場者数はコロナ禍以後、徐々に回復しているものの、コロナ禍以前の水準まで戻っていないため、引き続き来場者数増加を促す必要がある。	- 庄原まちなか協議会との連携強化 - 庄原ブランディングの推進 - 観光の基盤産業化の推進	- 庄原まちなか協議会への支援継続 - 庄原 DMO 等市内外の事業者との連携 - シティプロモーション構想の策定 - 第3期庄原市観光振興計画策定、観光消費額増加のための戦略づくり
	新たな課題	若年層の流出や地域連携の希薄化、活動の担い手不足解消に向け、地域人材を育成していく必要がある。	人材育成の推進	- 教育環境の充実 - キャリア教育と地域連携プログラム - 保護者支援と情報提供 - 地域人材育成推進事業
■既存資源を活用した魅力の創出	達成されたこと	- 庄原まちなか協議会が活動の中で、他自治体の視察や意見交換等を支援し、本市のオープンガーデンの魅力向上を図った。 - 沿道の歴史的な街並みと調和した道路の修景化によって、景観価値が向上した。 - 広場が整備されたことで、歩行者が休憩・滞留できる環境を創出した。	- 住民主体による賑わい創出の推進 - 歩行者ネットワークの充実（再掲）	- 庄原まちなか協議会におけるイベントの開催継続 - 連続性を持った歩行者空間の整備やバリアフリー化（再掲） - 道路や公園等の適切な維持管理（再掲）
	残された課題	戸郷川遊歩道整備、紅屋通り整備、新天地通り整備が未実施であり、引き続き整備を進める必要がある。	未完成事業の実施	戸郷川遊歩道整備、紅屋通り整備、新天地通り整備の実施
	新たな課題	—	—	—
■生活環境の向上	達成されたこと	- 庄原市民会館(みどりしんきんホール)・庄原自治振興センターそれぞれの事務室機能が統合され、来館者の利用申請負担が減少した。 - 多目的トイレや分かりやすい案内表示を設置するなどユニバーサルデザインに配慮した改修によって、利用者にとって使いやすい施設となった。 - 狭あい道路の拡幅や修景化によって、歩いて暮らしやすい空間を形成した。	- 庄原市民会館(みどりしんきんホール)・庄原市自治振興センターの維持管理 - 歩行者ネットワークの充実（再掲）	- 予防保全型のメンテナンス実施 - NP0 法人庄原市芸術文化センター・庄原市庄原維持振興区の運営継続 - 道路や公園等の適切な維持管理（再掲） - 本町板橋線の整備
	残された課題	中心市街地と各生活拠点を結ぶ移動手段が十分に整備されておらず、空き店舗や空き家の活用も進んでいない。さらに、公共施設の分散配置や再整備の遅れが課題となっている。中心市街地の都市機能の充実と集約・再配置を推進するとともに、中心市街地の機能が享受できるよう、移動手段の再構築を図る必要がある。	庄原版コンパクト＋ネットワークの推進	- 市域全体を俯瞰したまちの構造転換のためのビジョンの明確化 - 庄原市全体の将来をけん引する中心市街地の都市機能の充実と集約・再配置 - 日常生活に不可欠な機能がコンパクトに集約された生活拠点の整備 - 市民の誰もが中心市街地の機能を享受できる移動手段の再構築
	新たな課題	—	—	—
■災害時における防災施設の強化	達成されたこと	- 庄原市民会館(みどりしんきんホール)・庄原自治振興センターが大規模改修されたことで耐震性が向上し、指定避難所としての防災機能が強化された。 - 狭あい道路の拡幅とオープンスペース整備により、避難経路と退避場所が確保され、防災性が向上した。	防災機能の維持・強化	- 庄原市公共施設等総合管理計画に基づく維持管理 - 道路や公園等の適切な維持管理（再掲）
	残された課題	歩道幅員が狭く通学・通勤時の離合困難区間がみられるため、防災性・安全性向上に向けて対策が必要である。	電線類の被災軽減、ライフラインの確保	- 路側帯・歩道の確保または歩道拡幅 - 無電柱化の整備 - 本町板橋線の整備
	新たな課題	—	—	—